

# 未希ライフ(みきライフ)

登録番号：第3231号

登録年月日：平成4年9月1日

登録者：工藤清一(青森県弘前市石川  
字春仕内15)

育成者：工藤清一

来歴：「千秋」と「つがる」の

交雑実生

## 特性

### ■栽培特性および栽培上の留意点

樹勢は若木の時には強く、苗木、高接ぎともに3年以上の枝には立ち枝や角枝が出やすい。しかし、結実後は年数を経るにつれて枝が開張性から下垂気味になり、樹勢は弱くなる。したがって樹勢を回復させるために立ち枝や角枝を利用する。他の品種では通常、立ち枝や角枝を剪去するが、「未希ライフ」ではこれらを利用するのが賢明である。

結実開始は高接ぎ2年目頃からで、以後の生育状況から生産力では中から多、結実果の玉揃い、玉伸びはともに良好であり、樹勢が強くても障害果は認められていない。

収穫期は早い年で8月下旬で、通常は9月上旬である。収穫は着色、食味によって通常2～3回に分けて行う。

### ■果実特性

果形は円形で、果実の大きさは270g前後である。果色は褐紅色で縞が入る。収穫前落果は年によって少々認められる。果肉はやや硬く黄白色で、肉質は粗雑で果汁は多く、糖度が13.0%前後、酸度は0.4g/100ml、硬度は14.0ポンド前後である。貯蔵力は普通で20日、冷蔵では9月末頃まで可能である。

### ■病害抵抗性

通常の散布体系では斑点落葉病の発生は認められていない。

### ■地域適応性

育成者はこの品種を収穫作業の継続上、「未希ライフ」—「つがる」—中晩生種のラインに組み入れ、また、「千秋」に替わる品種として位置づけている。

平成3年には、青森県りんご協会から協会員のみを対象に5、6千本の苗木が出回っている。その後、育成者の工藤氏からも2千本ほどの苗木が出ている。また、弘前市では平成3年の台風被害に対する補助として、平成5年に8千本の苗木を生産者に配布している。これらの他にも生産者の自己増殖分がある。

これらの苗木が平成5年から6年にかけて結実し始めており、地域適応性や栽培上の長所、短所が徐々に明らかになるであろう。

(佐藤 耕)